

教科・領域等〔 技術・家庭科 家庭分野 〕

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び 視覚的にわかりやすく示して家庭科での実習をサポート

**こんな実践**

衣服の補修やリメイクの場面で、教師の手元を拡大し映したり、電子黒板を使って、布を裁断する位置に線を引いて示したりすることで、その後の実習の手順やポイントなどを分かりやすく伝え、生徒の活動を支援した実践です。

実践学校 K中学校

実践学年 1学年, 2学年

実践時期 1, 2学期

単元・題材名「私だけの衣服～補修やリメイクを通して～」

学習指導要領との関連：B 衣食住の生活 (5)

○ 衣服の補修の授業において

ワイヤレスビデオカメラで手元を電子黒板に拡大して映し、スナップ付けのポイントを分かりやすく説明しました。自分の席で手元の様子を確認でき、大きな画面で見やすく提示ができました。同時に録画を行うことで、実習中に手元の映像を再び確認することもできました。

また、学習カードをワイヤレスビデオカメラで撮影し、電子黒板で映し出すことで、生徒の気付きを全体で共有することができました。いくつかの画像を分割して表示することもできるため、複数の学習カードや製作の過程についても比較しながら確認することができます。

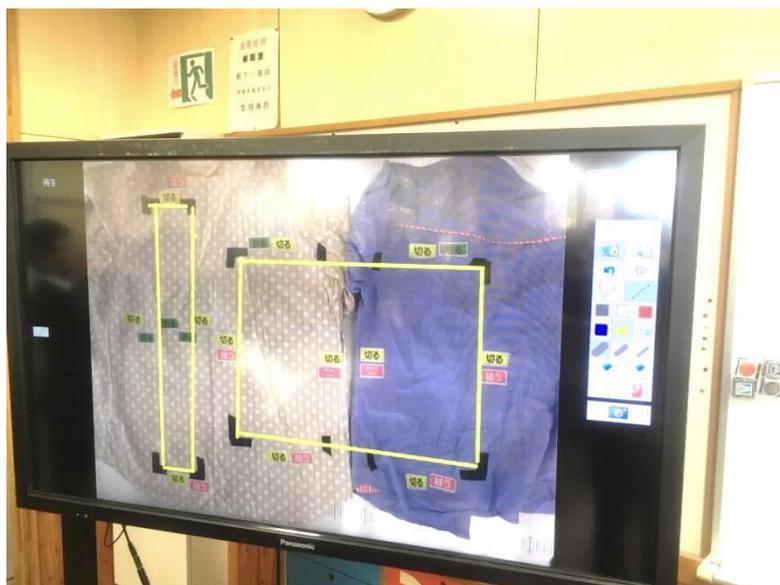


**ここがポイント！**

- ・ 細かな手元の作業も、拡大し大画面で確認することで、製作のポイントを分かりやすく提示することができます。普通のデジタルカメラでも三脚等を利用し同様の提示ができます。

○ 衣服のリメイクでバッグを製作する授業において

裁断する位置を確認する場面では、電子黒板に衣服を写し、本体や持ち手となる部分をタッチペンで示しました。直線も容易に引くことができます。この後の作業手順を説明し、思考の流れに沿って作業がスムーズに行えるようにしました。



**ここがポイント！**

- ・布の上に線を描いたり消したり、黒板上ではできないことが電子黒板では可能となります。細かな位置を示すのではなく、作業の流れが分かるように手順を説明するのに有効です。また素早く資料の提示ができるため時間の節約にもつながります。

**まとめ**

電子黒板など大きな画面で手元の様子や資料を提示することは、生徒が見通しをもって作業に取り組むのに有効です。また画面での提示は注目度が高いため、頻繁に使うのではなく、大切なポイントだけを押さえる場面での活用がさらに効果的です。

「ここぞ」という場面を授業の中で決めてICTを活用していきましょう。

